

# げんき No.60 カエル

兵庫県立こども病院  
ニュースレター



平成 30 年(2018) 1 月 1 日

## 冬の感染症にかからない、うつさない、ひろげないために

感染管理認定看護師 鳴滝由佳

感染症はウイルス、細菌、真菌などの微生物が原因で起こります。冬には胃腸炎や風邪などが流行しますが、その多くはウイルスが原因です。

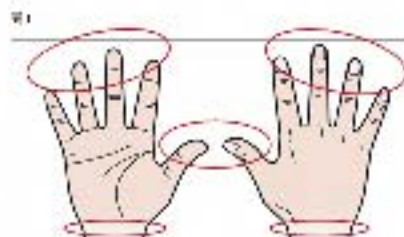
胃腸炎をおこすウイルスには、ノロウイルスやロタウイルスがあります。激しい嘔吐や下痢が主な症状です。非常に感染力が強く、わずかな量のウイルスでも感染します。便 1g には 1 億を超える数のウイルスが含まれているとも言われています。症状がなくてもウイルスをもっている場合がありますので、普段からオムツ交換の後やトイレでの排泄の後の手洗いをしっかりと行いましょう。

インフルエンザや風邪もウイルスが原因です。インフルエンザや風邪に抗生物質は効きません。水分をしっかりととり、栄養を補給し、体を休めることが大切です。無理をして学校や職場に行くことは、感染の拡大につながります。他のひとにうつさないためには、症状がある期間のマスクの使用が有効です。くしゃみは 3m 以上先まで飛ぶとも言われています(写真1)。咳や鼻水、くしゃみがあるときには、マスクを積極的に使いましょう。当院では、売店でマスクを販売しています。



写真1 厚生労働省 MHLWchannel より  
[https://www.youtube.com/watch?v=9Mkb4TMT\\_Cc](https://www.youtube.com/watch?v=9Mkb4TMT_Cc)

全ての感染予防の基本は、手洗いです。手洗いには、せっけんと流水で行う方法と擦式アルコール消毒薬で行う方法があります。どちらの方法も、指先、指の間、親指、手首など洗い残しやすい部位を意識して、10~15秒かけて手全体をしっかりと洗いましょう(図1)。流水手洗いの後はペーパータオルや清潔なハンカチで拭き、乾燥させることも大切です。なお、ノロウイルスはアルコールがききにくいいため、せっけんと流水で手洗いをしましょう。





## 医療的ケア児と共に生きる



久保 夕紀子(患者様ご家族)

私は、3人目の出産で上のこどもも小さかったので里帰りをしていました。お世話になる産婦人科の先生から「心臓の向きと、肺動脈が見えないことが気になります。」と言われ、荷物も開けないまま送り返し、兵庫県立こども病院に紹介状をもって受診したことを最近のことのように覚えています。

平成21年4月6日に普通分娩で息子を出産しました。小さな声で泣いてくれましたが、チアノーゼがひどく、ひとめ見て直ぐにNICUへ運ばれました。病名は「肺動脈閉鎖症、心室中隔欠損症、主要大動脈肺動脈側副血路」というものでした。

それから毎日母乳を届け、3ヶ月経って一回目の手術をしました。小さな身体の細い細い血管に新しい路を作って頂きました。

入院中は上のこども達を保育所へ預け、そのまま病院へ行き、下校時間までに帰るという生活でした。休みの日は家族で病院へ行き、上のこども達は待合室や公園で待っていました。兄弟3人がそれぞれどこかで、我慢していたと思います。私も自分の身体が二つ欲しいといつも思っていました。

そんな時に看護師さん達がいつもやさしく「お預かりしますね」とみてるのが支えになっていました。

それからカテーテル検査と5回の手術を繰り返して、この夏、チアノーゼがひどくなってきた8才の息子に0才の時につけた人工血管の入れ替えの手術をしてもらいました。結果良好でチアノーゼが随分となくなり、内服薬も8種類から3種類に減りました。

手術の度に先生達の額の帽子の汗と、シワ

シワになった指をみて、本当に感謝と涙がありません。

今、現在息子は明石養護学校の2年生です。酸素をつけて通学しています。言葉がまだでないので、手話やマカトンサインを使って学習をしてもらっています。

息子は学校が大好きです。これからも色々なことに挑戦して、経験して楽しく学んでいってほしいです。

私も初めて障がいのあるこどもの親となり、そこで様々な方々との出会いがありました。悩むこと落ち込むこともたくさんありますが、「ひとりではないよ」といってくれる温かい繋がりに恵まれ、それは今も続いています。

病院、学校、地域の方々、同じ様に病気のあるご家族の方達。息子の親となってできた“つながり”です。私の方が子供に成長させられています。

これからも家族で日々の生活を楽しみながら、毎日丁寧に過ごさせていけたらと思っています。





## 第3回「親と子の腎臓病教室」開催(10月28日(土))

腎臓の病気をもちながら生活し大人になっていくお子様が、自分自身の病気や治療について関心を持ち、セルフケアする力を高めることを支援するために、H27年より患者家族教室を開催しています。10月28日に第3回の「親と子の腎臓病教室」を開催しました。

今回はネフローゼ症候群の小学校3年生から中学生3年生までのお子様とご家族を対象に患者家族教室を開催しました。当日は50名のお子様とご家族が参加されました。腎臓内科医師、外来・病棟看護師、薬剤師、管理栄養士から病気や

治療、自分の飲む薬について、食事についてのお話しをしたあと、お子様はご兄弟と一緒にクイズスタンプラリーなどの体験学習をし、ご家族は交流会をおこないました。交流会ではこどもの成長とともに変化する様々な悩みを共有することができました。

今回の教室ではご兄弟も含め、家族みんなで病気や治療のことを考え振り返る機会になりました。これからも、お子様が自分で考えてできる力をのばしていくお手伝いをご家族と一緒にしていきたいと思っています。(看護師：栗林 佑季)



## 看護部感染対策委員会、院内感染対策委員会共同企画 手指衛生キャンペーン「手指衛生川柳」

手指衛生遵守率向上を目的に、各部署から川柳を募集しました。合計132題の応募があり、最優秀賞、優秀賞、入賞ほかを選出しました。入選作

品は、全職員対象感染対策研修会で表彰式を行いました。ポスターやカレンダーを制作し、啓発に使用させていただきます。

### 最優秀賞

手洗いが 守り支える 手を作る (手術室)

### 優秀賞

手指衛生 その習慣が 笑顔呼ぶ (7東病棟)  
手指衛生の 意識ひとつで 感染予防 (手術室)

### 入賞

手洗いは 感染予防の 第一歩 (GCU)  
ホワイトか オフホワイトか 私の手 (放射線部)  
意味あるの? あるからするねん 手指衛生 (GCU)  
サニサーラ これでバイキン サイナーラ (7東病棟)





## 警備室・防災センターの紹介



患者様、そのご家族の皆様にも、こども病院で皆様の治療を陰ながら支えている医療職以外の病院職員を紹介します。今回は警備のお仕事の紹介です。警備隊長の水野さんにお話を伺いました。

こども病院には地下1階の夜間入り口に警備室・防災センターが、南公園駐車場に防災センターがあり、そこで警備隊員と呼ばれる7名の隊員が交代して24時間体制で勤務しています。

各防災センターでは自動火災警報や、照明、セキュリティドア、南公園駐車場および、南公園駐車場のエレベーターやトイレなどで異常が発生していないか、常に監視装置で監視しています。

警備室では、①業者の入退館管理 ②鍵の貸し出し管理。夜間・休日の施錠、解錠 ③患者様をはじめとする来院者のご案内 ④夜間・休日の受診患者様のご案内と救急外来への連絡 ⑤保安と異常発見のための院内、駐車場および病院外周の巡回 ⑥ドクターカーの鍵の貸し出し ⑦ドクターヘリ稼働時のヘリポート解錠および非常用エレベーターによる患者様の搬送対応 ⑧警報作動時に中央監視と連携して行う現場確認と対応 ⑨駐車場料金関連 等の業

務を行っています。たくさんの種類の制御盤とモニターが並ぶ部屋はとてまかっこいいのですが、防犯の都合上、写真でお見せできないのが残念です。

特にどんなことに注意して、お仕事をされているかお聞きしました。まず来院者の出入りの窓口としてわかりやすく、丁寧で機敏な受付と案内を心がけているそうです。各種警報作動時には現場確認を迅速に行います。院内や外周巡回により出入り口、窓の施錠、不用箇所の照明消灯、施設の異常発見に努めています。とのこと。頼もしくて優しい力で患者様が安心して治療を受けられるように、陰ながら支えてくれる警備のみなさんです。



### Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
  2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
  3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
  4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
  5. 親とこどもが一体となった治療の推進
  6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
  7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
  8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



### 編集後記

2018年を迎え、いろいろなことが動き出すようなワクワクするような時期に合わせて、げんきカエル1月号を発行することができました。寒い日が続き、各種ウイルスによる感染症は我々医療者としても大変重大な関心事で皆様と一緒に予防に努めたいものです。保護者手記にも読んでいただいたような皆様とつながり、寄り添う医療をスタッフ一同、警備の方々のサポートもいただきながら、今年も心がけたいとお思います。次号もお楽しみに…

編集委員長：大津雅秀  
 編集委員：藤岡繁宏 谷本江利子  
 橋本ひとみ 新井隆浩  
 山口善道 坂田亮介  
 立木尊一 井口秀子  
 山本正子 沼田憲作  
 大崎隆広 近藤由敬  
 中嶋元樹

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院  
 HYOGO PREFECTURAL  
 KOBE  
 CHILDREN'S  
 HOSPITAL

〒650-0047  
 神戸市中央区港島南町1丁目6-7  
 TEL. 078-945-7300  
 FAX. 078-302-1023  
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>  
 e-mail. info\_kch@hp.pref.hyogo.jp